

函館市医療・介護連携推進協議会 多職種連携研修作業部会

第23回会議 会議録

1 日 時

令和8年3月3日（木） 19:00～20:00

2 場 所

函館市医師会病院5階講堂

3 出欠状況

メンバー：阿部部会長，川口副部会長，花輪幹事，川村メンバー，橋浦メンバー，
室田メンバー，益井メンバー，宮城メンバー，山上メンバー，齋藤メンバー
部会運営担当：函館市医療・介護連携支援センター）近藤，森田
事務局：函館市保健福祉部地域包括ケア推進課）渡辺主査，川村主事
オブザーバー：函館市医療・介護連携支援センター
在宅医療連携拠点運営事業担当）佐藤
ほくと・ななえ医療・介護連携支援センター）眞嶋

4 議 事

○報告事項

1. 令和7年度 多職種連携研修計画 実施報告（資料1，2，3）
2. 研修情報の一元化と提供について（資料4）

○協議事項

1. 令和8年度 多職種連携研修計画（案）（資料5）

5 会議の内容

川村医療・介護連携担当

ただ今から，函館市医療・介護連携推進協議会の多職種連携研修作業部会 第23回会議を開催いたします。前回の会議でも確認しておりますが，この会議は原則公開により行いますので，ご了承願います。

次に，第22回の会議録についてですが，事前に各メンバーの皆様にご確認をさせていただきました。特に修正のご意見がなければ，原案どおりで第22回会議録を確定し，市のホームページ上で公開させていただきますが，よろしいでしょうか。（異議なし）

ありがとうございます。本日は，一般社団法人函館薬剤師会 水越様，公益社団法人北海道看護協会 道南南支部 奴賀様，函館市地域包括支援センター連絡協議会 京谷様，道南訪問看護ステーション連絡協議会 白川様が所用により欠席となっております。なお，函館

鍼灸マッサージ師連絡協議会 益井様が遅れての出席となります。

次に、幹事の交代がございましたので、ご紹介させていただきます。函館市医療・介護連携支援センターに12月1日付で配属になりました、森田様です。森田様に一言、ご挨拶をいただきたいと思います。

函館市医療・介護連携支援センター 森田運営担当

皆様、お疲れ様です。12月より函館市医療・介護連携支援センターに入職いたしました、森田と申します。前職は、東京の方で老人福祉施設の相談員として勤務しておりました。まだわからないことが多々ありますが、 よろしく願いいたします。

川村医療・介護連携担当

森田様、ありがとうございます。次に、令和8年1月1日から、函館市医療・介護連携支援センターで新たに開始した事業についてご説明いたします。

これまで函館市医療・介護連携支援センターでは、介護保険法に基づく「在宅医療・介護連携推進事業」として主に高齢者を対象に、医療と介護の連携を進めてまいりましたが、今回からは対象を全ての在宅療養者に広げて、在宅医療の提供体制を強化するため、2つの事業を開始しております。

1つ目が、「在宅医療連携拠点運営事業」で、これまでの医療・介護関係者の連携に加えて、新たに障がい福祉関係者を含めた多職種の連携を支える窓口としての役割を担います。

2つ目が、「在宅医療グループ診療運営事業」で、主治医・副主治医制の導入や、主治医が不在の際の代診対応を行いながら、在宅医療を担う新たな医師の育成につなげる事業です。

これら2つの事業には、それぞれ調整担当者を1名ずつ配置しており、これまで医療・介護連携推進事業のコーディネーターを担当しておりました、佐藤様が在宅医療連携拠点運営事業の調整担当者となっております。部会メンバーの皆様におかれましては、今後ともセンターの活動にご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは、本日の資料を確認させていただきます。会議次第および資料1から5までの合計10枚、また、座席表と出席者名簿を机上に配付しております。

本日の会議の議事の進行につきましては、皆様の特段のご配慮とご協力をお願いいたします。それでは阿部部会長、お願いいたします。

阿部部会長

それでは、次第に従い議事を進めてまいります。報告事項1、報告事項2に関して、花輪幹事から説明願います。

花輪幹事

皆様、こんばんは。函館市医療・介護連携支援センターの花輪です。報告事項1「令和7年度 多職種連携研修計画 実施報告」および報告事項2「研修情報の一元化と提供について」につきまして、ご報告します。昨年2月にご協議いただいた計画に沿って実施または準備を進めているところです。資料1をご覧ください。資料2の「令和7年度 多職種連携研修実績表」と合わせてご覧いただければと思います。前回の会議でご報告したものについて

は割愛させていただき、その後実施したものについて、ご報告させていただきます。

(1) 相互理解の促進

①医療関係者向け研修ですが、同テーマ・同講師・同内容にて全3回開催しました。3回目は、令和8年2月18日水曜日に、函館市医師会病院にて開催し、26名の方にご参加いただきました。

②介護関係者向け研修ですが、こちらも医療関係者向け研修と同様に、同テーマ・同講師・同内容にて全3回開催しました。3回目は、令和8年2月12日木曜日に、函館競輪場テレシアターにて開催し、25名の方にご参加いただきました。

③オープンカンファレンスですが、今年度の開催はありませんでした。

④研修会等コーディネートについては、前回報告済みのため、割愛させていただきます。

(2) 連携強化

①連携強化

(ア)「第10回函館市医療・介護連携多職種研修会」ですが、令和7年10月18日土曜日に、函館国際ホテルで開催しました。テーマは「病院・在宅・施設の立場から考える～在宅(自宅・施設)生活ムリだよねの壁を越えてみませんか?～」で、座長は函館稜北病院 副院長 川口 篤也先生、講師は訪問看護ステーションオハナ 管理者 高畑 智子様、函館中央病院 副師長 退院支援看護師 奥山 ちどり様、訪問介護ステーション輪 管理者 酒井 雅子様、亀田病院 診療部長 清水 平先生です。グループワーク参加者は121名、聴講席が52名、関係者を含めると200名の方にご参加いただきました。資料3は、本研修会のアンケート結果および振り返りになります。後ほどご覧いただければと思います。

(イ)「函館市医師会 在宅医療医会 事業説明会&第6回研修会」ですが、令和8年3月9日月曜日の19時から、函館市医師会病院で開催予定です。内容は、事業説明会と研修会で、説明会は「函館市在宅医療グループ診療運営事業について」、研修会は「(仮)在宅医療に関わる診療報酬について」をテーマとしており、定員は30名です。

②看取り

「令和7年度函館市医療・介護連携『在宅看取り研修会』」ですが、前回報告済みのため、割愛させていただきます。

③入退院支援

(ア)入退院支援連携強化研修会(ガイド編)ですが、令和7年11月14日金曜日に、函館医療センターで開催しております。テーマは「ズレてない?その人のイメージ～視点のズレに気づいて、すり合わせるケア連携～」で、座長は退院支援分科会長 函館市地域包括支援センター連絡協議会 福島 久美子様、発表者は退院支援分科会メンバーでもあります、北海道医療ソーシャルワーカー協会 南支部 医療相談員 岩城 朋美様で、57名の方にご参加いただきました。

(イ)入退院支援連携強化研修会(サマリー編)ですが、1つ目は「令和7年度 医療・介護連携ID-L i n k活用推進研修会」併催「メディカ体験説明会」を、令和8年2月14日土曜日に、市立函館病院で開催しております。テーマ1は「セキュリティ対策について」で、講師は株式会社エスイーシー 医療ソリューション事業部 ID-L i n kサポートセンター 佐竹 美香様、テーマ2は「ICTを活用した“あったか”医療介護連携～治し・支える実践報告～」とし、講師は、名寄市立総合病院 外来看護係長 宮腰 七蘭様で、

37名の方にご参加いただきました。

2つ目は「令和7年度 もしもノート研修会」で、函館市医療・介護連携推進協議会 情報共有ツール作業部会およびほくと・ななえ医療・介護連携支援センターと共催しました。日時は令和8年3月4日水曜日の18時30分から20時で、場所は函館市民会館にて開催を予定しております。座長は情報共有ツール作業部会長 函館中央病院 事務次長 亀谷博志様、登壇者はもしもノートの発案者である市立函館病院 緩和ケア科科長 山崎 裕先生、情報共有ツール作業部会メンバーの訪問看護ステーションフレンズ 統括所長 保坂明美様です。研修形態としては、講師の講演後、2人ワークを行い、実際にもしもノートを活用した対話体験をしていただいた後、グループワークを予定しております。当日は、情報共有ツール作業部会メンバーにファシリテーターとしてご協力いただく予定です。情報共有ツール作業部会では、このもしもノート研修会を次年度も何度か開催する予定です。

④急変時対応

「令和7年度 函館市医療・介護連携『急変時対応研修会』」ですが、日時は令和8年3月13日金曜日の18時30分から20時で、場所は函館競輪場テレシアターでの開催を予定しております。テーマは「予期せぬ急変に備える力」で、座長は函館中央病院 事務次長 亀谷 博志様、パネリストは函館おしま病院 名誉院長 福德 雅章先生、グループホーム第3やわらぎ 管理者 高橋 拓子様、函館市消防本部 救急課長 指導救命士 小松道様です。定員は100名を予定しております。

(3) 多職種連携の専門性の向上

前回報告済みのため、割愛させていただきます。

(4) 人材育成

センター主催研修会への見学参加ですが、研修会開催の都度、医療・介護系の各学校へ研修案内を配信しております。

資料1の「2. センターホームページ『コラム』の掲載について」ですが、医療・介護連携マップで検索できる各機関の機能として、2～3ヶ月ごとにコラムを掲載しております。内容につきましては、前回報告済みのため割愛させていただきますが、令和7年4月から令和8年1月までの閲覧件数は計1,597件となっております。今回は3月に、社会医療法人 高橋病院 介護医療院 看護マネージャー 花田 みゆき様の「介護医療院」のコラムの掲載を予定しております。

次に、報告事項2「研修情報の一元化と提供について」、ご説明いたします。資料4をご覧ください。令和7年4月から令和8年2月までに掲載した地域の研修情報は合計43件となり、昨年の同時期と比べると10件ほど掲載件数が増えています。その他、ほくと・ななえ医療・介護連携支援センター主催研修会が3件、各団体との共催研修会が3件、函館市医療・介護連携支援センターおよびほくと・ななえ医療・介護連携支援センター共催研修会が7件となっております。引き続き、研修の情報がありましたら、情報提供にご協力いただけますと幸いです。

報告事項1「令和7年度 多職種連携研修計画 実施報告」および報告事項2「研修情報の一元化と提供について」の報告は以上です。

阿部部会長

報告事項 1 および報告事項 2 に関して、皆様からご発言をいただきたいと思います。ご意見、ご質問等はございますか。(なし)

それでは、報告事項 1、報告事項 2 に関しては以上で終了し、次の議事に進めてよろしいでしょうか。(異議なし)

続きまして、協議事項 1 について、幹事から説明願います。

花輪幹事

協議事項 1 「令和 8 年度 多職種連携研修計画 (案)」についてご説明します。資料 5 をご覧ください。

(1) 相互理解の促進

①医療／介護・障がい福祉関係者向け研修会ですが、冒頭に事務局からお伝えしたとおり、令和 8 年 1 月より医療計画に基づく「在宅医療連携拠点運営事業」がスタートしたことに伴い、これまで研修会の参加対象を函館市・北斗市・七飯町の医療・介護関係者としておりましたが、今後は函館市の障がい福祉関係者も参加対象者となり、案内を配信してまいります。

a. 医療関係者向け研修ですが、引き続き各施設種別による機能等の違いについてより深くご理解いただく機会として企画しており、次年度は介護医療院と養護老人ホームについてを予定しております。目標は今年度と同様で、テーマは「(仮) 退院後、施設でこんな生活をしています ～介護医療院、養護老人ホーム編～」とし、講師は施設の相談員か看護師に依頼予定です。研修時間は 1 時間としております。内容は、資料に記載しているとおりですが、研修の目的である「相互理解」を図るため、施設の特色についての他、施設側の様々な事情や強みについて等、お話ししていただく予定としております。お話しいただく内容としては、それぞれ①～⑦まで用意しておりますが、全ての内容をお話ししていただくわけではなく、限られた時間になりますので、講師の方と相談の上決めていきたいと考えております。開催方法は集合開催で、開催場所は、1 回目が市立函館病院、2 回目が函館新都市病院、3 回目が函館市医師会病院を予定しております。開始時間は、1、2 回目は開催場所となる病院の職員が参加しやすい時間で、1 7 時 3 0 分から 1 8 時 3 0 分を予定、3 回目の函館市医師会病院での開催は、各医療機関の皆さんが業務を終えてから参加していただけるようにと考えており、1 8 時 3 0 分から 1 9 時 3 0 分を予定しております。

b. 介護・障がい福祉関係者向け研修ですが、今年度同様に病床機能について理解を深める機会として企画しております。精神病床および医療療養病床についてお話ししていただくこととし、テーマは「(仮) 現場で知っておきたい精神病床・医療療養病床の役割と事情 ～思いやりのある連携～」としております。内容は、それぞれの病床機能や役割および医療側の事情等についてお話ししていただきたいと思いますと思っております。医療関係者向け研修会と同様に、こちら資料に記載している内容を全てお話しいただくのではなく、講師の方と相談の上決めていきたいと考えております。開催場所ですが、1、3 回目は函館市、2 回目は北斗市または七飯町での実施を予定しております。時期は、医療関係者向け研修も介護・障がい福祉関係者向け研修も 5 月、8 月、年明けの 2 月を予定しております。

②オープンカンファレンスの開催については、この先、川口先生およびオープンカンファレンス開催のコアメンバーと相談しながら、開催を検討していきたいと考えております。

③研修会等コーディネートについては、医療・介護各関係団体窓口一覧の更新のため、その確認書類を例年どおり6月頃に各団体に配付し、情報の更新をしていく予定です。

(2) 連携強化

①第11回函館市医療・介護・障がい福祉連携多職種研修会ですが、日時は令和8年10月17日土曜日の14時から17時までを予定しております。共催はほくと・ななえ医療・介護連携支援センターで、場所は函館国際ホテルとしております。形態は講演、グループワークとし、「これまでの医療・介護連携に障がい福祉分野の方々に参加してもらい、それぞれの役割や専門性を互いに理解し、患者・利用者および障がい者（児）が切れ目なく安心して地域で生活できる支援体制を構築するため、多職種間の連携意識と実践的な連携力を高めていくことができる」を目的としております。目標は、「医療・介護・障がい福祉それぞれの支援の視点を知り、互いの役割・制度の違いを理解する」、「連携が必要な場面を互いに共有し、理解する」、「医療および介護、障がい福祉関係者に必要な知識・技能に関する情報共有を行える多職種連携の新たな土台の構築（顔の見える関係づくりの構築）」としております。

テーマは「(仮) 医療・介護・障がい福祉の垣根を越えて つながるあらたな一歩」ですが、サブテーマ案が3つあり、案①は「～知ろう！語ろう！繋がろう！～」、案②は「～みんなで考える連携の課題～」、案③は「～暮らしを支える連携を考える～」としており、後ほど皆様からご意見をいただきたいと考えております。

この研修会としたのは、先ほどからお話ししておりますとおり、在宅医療連携拠点運営事業においては、在宅医療に携わる医療および介護関係者に加え、障がい福祉関係者にも必要な知識・技能に関する研修の実施や情報の共有を行うこととなっております。目的にも記載しておりますが、これまで取り組んできた医療・介護連携に障がい福祉分野の方々に参加してもらい、それぞれの役割や専門性を互いに理解し、患者・利用者および障がい者（児）が切れ目なく安心して地域で生活できる支援体制を構築していくことを目指して、今後も研修会を企画してまいります。

座長は、函館稜北病院の川口先生を予定しております。講師はまだ候補の段階ですが、医療側はソーシャルワーカー、介護側は包括職員かケアマネジャー、障がい福祉側は相談支援専門員というように、それぞれの分野において窓口となっている方と考えております。講演内容は「医療・介護・障がい福祉」それぞれの連携における現状と課題、現場で起こりやすいすれ違い等々についてとしておりますが、これにつきましては、講師の方と相談の上決めていきたいと考えております。

グループワークについてですが、パターンを3つ考えており、パターン1は、ワールドカフェ風に行い、①各分野同士で連携における困りごとについて話し合い（医療・介護・障がい福祉それぞれの分野での席）、②席替え後、①で話し合ったことを多職種で共有し合い更に深めることとしております。パターン2は、こちらもワールドカフェ風に行い、①多職種で連携における困りごとについて話し合い、②席替え後も多職種で①で話し合ったことを共有し合い、更に深めることとしております。パターン3は、席替えをしないで多職種でのグループワークとし、2つのテーマについてディスカッションをと考えております。

②看取り「函館市医療・介護連携『施設看取り研修会』」は、道南地区老人福祉施設協議会、道南地区老人保健施設事務長連絡会、南北海道グループホーム協会、函館市有料老人ホ

ーム・サービス付き高齢者向け住宅ネットワーク、函館市医師会 在宅医療医会との共催での開催を検討しております。

③入退院支援 入退院支援連携強化研修会（ガイド編）と入退院支援連携強化研修会（サマリー編）は、各部会・分科会において開催を検討してまいります。

④急変時対応については、実務者会議において検討していく予定です。

長くなりましたが、協議事項1「令和8年度 多職種連携研修計画（案）」の説明は以上です。「令和8年度 多職種連携研修計画（案）」について、ご協議いただければと思います。特に、大規模研修会のテーマとグループワークについてのご意見をいただけますと幸いです。

阿部部会長

それでは、協議事項1に関して、皆様からご発言をいただきたいと思います。ご質問、ご意見はございませんか。

齋藤メンバー

資料5の2ページ目、医療関係者向け研修会の開催時間が17時30分から19時30分となっていますが、終わりの時間は18時30分ではないでしょうか。おそらくミスだと思いますが、確認です。

また、10月17日開催予定の多職種連携研修会のワールドカフェについて、勉強不足でわからないのですが、ワールドカフェというのは、どのようなものなのか教えていただければと思います。

佐藤オブザーバー

ご質問ありがとうございます。齋藤さんは、ケアカフェに出たことはありましたか。出ていらっしゃるのであれば、あれがワールドカフェです。という説明だと、ざっくりしすぎているかもしれませんが、お菓子やコーヒーなどを食べ飲みしながら、本当にざっくばらんに皆さんで語り合い、模造紙には絵を描いてもいいし、文字を描いてもいいし、何を描いてもいいですよ、というイメージです。そして、2回目のグループワークでは、自由な席に移動して、そこに座ったメンバーで、1回目のグループで出た意見を共有しながら、またそのグループのメンバーと談議していくというイメージです。

齋藤メンバー

ケアカフェの場合は、テーブルの中で1人だけ残る人がいますよね。

佐藤オブザーバー

そうですね。大規模研修では、いつもグループワークにおける司会の方を事前をお願いしているのですが、その方にテーブルホストという形で残っていただいて、共有していく形になろうかと思います。

齋藤メンバー

すごいですね。かなりの人数で行うということがわかりました。

佐藤オブザーバー

もしかしたら覚えていないかもしれませんが、過去に1回やっています。

齋藤メンバー

そうなのですか。覚えていないですね。

佐藤オブザーバー

だいぶ前で、ワールドカフェという説明はしていなかったかもしれませんが、過去の大規模研修でやっておりました。

齋藤メンバー

全部の大規模研修に出ているのに、覚えていなかったです。ありがとうございました。

阿部部会長

先ほど事務局から提案があった大規模研修会のテーマ案について、仮の「医療・介護・障がい福祉の垣根を越えて つながるあらたな一歩」という主題がございますが、サブテーマについて協議してほしいということですか。

花輪幹事

はい。センターでも色々と、参加していただく方に向けてキャッチーで飛び込みやすいようなテーマというのが何だろうかと考えており、今回は障がい福祉分野の方々に参加していただくということで、あまり固いタイトルだと「ちょっと私たち入れないわ」という印象になってしまうので、そうならないためには、参加してみんなとお話しをして、楽しかっただけではないですが、こういう研修会であればまた参加したいなと思ってもらえるような研修会にしたいです。どんどん参加して、自分たちが関連する事業所と顔つなぎができ、「今後はこういう事業所さんをお願いしようかな」ということにもつながる研修会にしたいと考えています。皆様に参加していただきたいと思うと、なるべくキャッチーというか、フランクなテーマにしたいと考えておりました。センターとしても、こういうサブテーマであれば飛び込みやすいかなと思い、3つほど候補を考えたのですが、他にもこういったテーマがいいのではというご意見やご提案をいただければ、それらを取り入れながら構築したいと思っておりますので、ご意見をいただければと思います。

阿部部会長

主題はこれがベースで、サブテーマを皆さんから欲しいということですか。

佐藤オブザーバー

主題もです。主のテーマもあくまでも案です。考えたテーマ等の理由は、先ほど花輪が説明したとおりですが、「これだとこんな間違いが生じるのではないか。だったらもうちょっとこっちのほうがいいのでは」といったご意見がございましたら、ぜひ参考にさせていただ

きたいと思っております。このテーマで確定ではなく、ご提案と考えておりました。

阿部部会長

キャッチーなフレーズが頭の中に浮かんでいるかと思いますが、益井さんはいかがでしょうか。一番ありそうな気がします。

益井メンバー

広い意味で多職種連携につながると思うので、十分このテーマでいいと思います。

阿部部会長

サブテーマについてはどうでしょうか。

益井メンバー

サブテーマについて、どれがいいかということですね。これについては、もう少し講師や内容が煮詰まってきた時に選べばいいのではと思います。今の時点ではどうでしょう。まだ焦って決める必要もなく、講師が決まって内容が煮詰まってきた時点で、見えてくるのではないかと、個人的には思います。

室田メンバー

新しく障がい福祉の方が参加されるとのことですが、今は障がい福祉の人との連携がほぼないので、障がい福祉の方と連携のない立場からすると、案①が一番いいと思います。

橋浦メンバー

質問も含めるのですが、私も急性期病院の立場なので、障がい福祉関係の方との連携というと、割と回復期や在宅の手前の医療の方々の領域なのかと思うので、詳しいことはわかりませんが、今の時点で、障がい福祉との連携で課題になっていることがあれば、教えていただきたいです。もし、そもそもの課題が上がっていないから、今回は現場同士の方で話し合っていて、課題発掘をあらためてしてみようという趣旨であれば、おそらくサブテーマ①が妥当なのではないかと思います。

花輪幹事

課題と思われるのが、高齢者やその狭間というか、年齢的にはまだ高齢者と呼ばれる世代に達してはいないが、サービスの的には障がい福祉分野のサービスなのか、高齢者分野のサービスを使うべきなのかということがあったり、年齢的には高齢者だが、障がい福祉サービスを使っている場合があったりなど、そういった連携部分での切り替えや、病院側と情報連携をする際に、障がい福祉も関わっているし、高齢者も関わっているしということで、情報共有の部分でうまくいなくて困った場面なども、もしかしたらあるのではと思っています。

年齢的にはまだ65歳に満たしていないが、第2号被保険者で少し介護保険は使っている。でもサービスの的には足りないので、障がい福祉サービスを併用して使っている方も中にはいます。そうなってくると、どこにつないでどこと共有していけばいいかという部分でも、様々

な課題があるので、私たちがまだ見えていないだけで、実は実情を聞いていくと、他にももっと課題があると思います。ここに関しては、センターとしても色々と情報収集していきますが、依頼する講師の方々にもお話を聞きながら、内容を整理していく必要があると思っていますところ。

佐藤オブザーバー

補足ですが、今花輪がお話したように、高齢者分野の支援者と障がい福祉分野の支援者の支援内容が重なる場面での連携が果たしてスムーズにいつているのかという課題については、確かにそのとおりかと思えます。ただ、橋浦さんがおっしゃるように、実はセンターの中でも、障がい福祉関係者が一体どのようなところに課題を感じているのか、どのような連携を必要としているのかというところの把握が実はまだまだ足りていません。これから何らかの形で把握したいと考えたときに、この研修の場を課題抽出の場としても活かしていけたらという思いがあったことも一つです。今まで医療と介護の連携の中で、特に連携が必要だと言われてきた、入退院支援、看取り、日常の療養支援、急変時という4つの場面は、きっと障がい福祉関係者の中でも、連携が必要な場面だと思うので、そういったところも踏まえて、新たに医療・介護関係者間だけの連携課題ではなく、そこに障がい福祉関係者の方々も入ったときの連携課題について、どんな形のものが上がってくるのかというところを、研修でぜひ抽出したいと思っていますところ。

橋浦メンバー

確かに福祉サービスには種類がたくさんあって、職人技があるのではと思う節もありますので、こういう場でそれぞれの専門家の方々が、いいディスカッションもできればいいのかなと思います。そう考えたら、私としては案①がいいと思います。

阿部部会長

ありがとうございます。皆さんに聞いていると時間が経ってしまいますので、このテーマについて、他にご意見はありますか。

宮城メンバー

障がいを持った利用者さんというと、私たちの立場ではやはり第2号被保険者の方がとても多く、例えば就労支援の話になったときに、果たしてどこにどのような支援があるのかということが、調べれば調べるほどたくさん出てきます。送迎をしているところもあれば、していないところがあったりするので、第2号被保険者の方にとっても知りたい部分というか、私たちケアマネジャーが伝えていかなければならないところなのかなと思っています。中には、「ヘルパーは使っているが、通所リハビリは高齢者が多く、そちらには行きたくない。就労支援の方で頑張りたい」というように、介護サービスと障がい福祉サービスを併用して使っている方もいます。第2号被保険者の方はどうやって自立を提案していくのかという点では、障がい福祉関係者が入ったワールドカフェというのは、すごくいい研修会だと思います。ケアマネジャーであっても、障がい福祉関係者と関わっていない方もたくさんいて、就労支援の部分を全く知らない方も以前の研修で出会ったことがありました。サブテーマとし

ては、やはり知るところから始まるのがいいと思うので、案①を選択したいと思います。

益井メンバー

私自身、障がい者支援に関して知識がないので質問なのですが、宮城さんのお話にあったように、ケアマネジャーというのは、障がいのある方の支援もしてくれるのですか。以前経験したことなのですが、どんどん身体機能が低下していく遺伝的な病気を持った、非常に体格のいい男性がいました。父親はおらず母親がずっと看っていて、お風呂にも入れられない状況でした。少しでも体を動かさなければいけないということで、訪問マッサージに伺って関わっていたのですが、お風呂に入りたいというお母さんの想いを聞いた際に、私もどこにどう相談していいかわからず、確か佐藤さんに最初にどうしたらいいか相談して、その後、保坂さんをお願いして動いてもらいました。当時、その男性はまだ若かったので、市からの援助があるのかや、何の保険を使っているのかなど、どこに相談したらいいのか全くわからない状況でした。おそらく、現時点でもそういうことがわからずに、自分の家族を看ているご家族もいるでしょうし、もしかしたら私の職業のようなところにも話が舞い込んでくる可能性もあります。しかし、本当にどう動いていいか、現時点ではわかっておらず、困ったら地域包括支援センターに行けばいいのではという認識なので、もう少し深い話ができればと思います。やはり、まずは知りたいと強く思います。

阿部部会長

今の皆さんのお話を聞くと、サブテーマの案①が非常にしっくりくるのかと思います。

佐藤オブザーバー

すみません。益井先生の質問への回答を宮城さんをお願いしてもいいですか。障がいがある方でも介護保険が適用になっている方であれば、ケアマネジャーに動いていただけるものなのかということについてです。

宮城メンバー

そうですね。私はやっているというか、いつからやり始めたのか、どうやってそれを知ったのか、昔過ぎて忘れていますが、高齢者は何とか介護保険サービスだけで対応できていても、障がいがある方だと、「もっとこういうことがしたい」と具体的な話が出てきた時に、例えば通所リハビリだけでは、それが解決できないこともあります。障がいがある方によっては、「もっと社会に出たい」や「そんなに収入にはならなくても、やっぱり仕事的なことを続けたい」などの意向がある場合もあります。そういう方がいた際には、この方にとってどんな事業所がいいのかを自分で調べます。例えば、パソコンの練習をしたいなど、色々ありますが、条件に合う事業所などを見つけて紹介するということは、介護保険に限らずやっています。

益井メンバー

そもそも、身体ケアをする場合に、障がい福祉系で何らかの保険が適用されるような制度はあるのですか。

阿部部会長

自立支援医療といって、障害者総合支援法に基づく制度があります。

益井メンバー

市役所に申請する形になりますか。

阿部部会長

そうです。障がい保健福祉課に申請します。

益井メンバー

障がい保健福祉課に申請するのですね。

阿部部会長

障がい福祉にも区分があり、介護保険の区分みたいなものがついています。介護保険でいうケアマネジャーに代わるような役割として、障がい福祉にも相談支援員という方がいますので、その方がマネジメントするという形になります。そういった中で、医療と介護と障がい福祉がうまく垣根なく連携できればというところだと思います。

宮城メンバー

私たちが作っているケアプランの中にも、障がい福祉の就労支援が入ってきて、なぜその支援を使っているかという理由づけが必要になってくるので、やはり支援者の一部として、障がい福祉も存在して、動いていただいています。

益井メンバー

ハブとして動く人として、ケアマネジャーも相談支援員もハブになり得るのですか。

宮城メンバー

そうです。

佐藤オブザーバー

その場合は、ケアマネジャーが2人いるような形になります。介護保険のケアマネジャーと障がい福祉の相談支援員とです。

阿部部会長

全体としては、主題はこのままで、サブテーマは案①が一番しっくりくるかなというところですよ。あとはまた、センターの方でご相談いただくということによろしいですか。

花輪幹事

はい。

阿部部会長

それでは、次に進みたいと思います。グループワークの内容について、パターン1，2，3を出していただきました。先ほどワールドカフェ風についての説明がありましたが、こちらについて質問やご意見をいただければと思います。

川口副部会長

パターン1と2の違いが分かりづらいのではないですか。

阿部部会長

1と2の違いですね。どちらもワールドカフェ風なのですが、事務局からはいかがでしょうか。

花輪幹事

パターン1ですが、まず①の方で医療分野、介護分野、障がい福祉分野、それぞれのテーブルを用意して、それぞれのテーブルで、医療分野では障がい福祉と介護との連携における困りごとを、介護分野では医療と障がい福祉との連携における困りごとを、障がい福祉分野では医療と介護との連携における困りごとやそれぞれの課題を抽出していただき、②では分野が混ざった多職種のテーブルを用意して席替えをし、①で出た困りごとや課題などについて話し合っていたく形としております。

パターン2ですが、最初から各分野が混ざった多職種の席を用意して、そこで同じように連携における困りごとや課題等について話し合ってください、その後にまた多職種のテーブルに席替えをしていただき、移動した先のテーブルで、席替え前に各テーブルで出たお話を共有し、その後の話し合いでさらに内容を深めていただく形となります。

佐藤オブザーバー

パターン1の1回目の席はそれぞれの分野で分けましょうということです。1回目の席では各分野がそれぞれの分野における困りごとを話し合い、席替えの時には多職種が混ざっていくという違いがあります。1回目の席も2回目の席も多職種で座るのがパターン2です。

阿部部会長

皆さんイメージはできたでしょうか。

齋藤メンバー

イメージはできたのですが、パターン1の弱点は、最初に分野ごとに集まった中で、課題抽出があまりできない状態で次の席替えに移動してしまうと、全てがめちゃくちゃになってしまうという点があります。パターン2の場合は、最初から多職種が集まることで困りごとの共有に時間を要してしまうという点があり、どちらにしても時間配分を間違えると、①と②の席替え後の効果が薄まるという懸念があります。

あとは、講師を3つの分野から選出して、講師から3つの分野の連携における問題点を的

確にお話ししていただけるのであれば、ある程度、その後のグループワークの話し合いが進むのかなと思います。ただ、今はまだ内容も全然決まってない状態なので、ワールドカフェ風にするかしないかの二択ぐらいしかないのではないかと、個人的には思いました。

山上メンバー

齋藤さんの意見に近いところもあるのですが、異なるメンバーで2回グループワークをする場合、席替えした際に改めて最初の挨拶から始まるとなると、あまり話題を深掘りできないのかなという印象があります。

また、パターン1とパターン2で自由に席替えしましょうといったお話もあったのですが、私のようにコミュニケーションが得意ではない者の場合、どうしても同じ職種の人の方に寄っていく傾向があるのではないかと思います。そこも、ワールドカフェ風にやりたいのであれば、事前に座席を割り振りしてあげた方が望ましいのかなとイメージしました。

阿部部会長

貴重なご意見をありがとうございます。

川村先生、グループワークについて思われることがあればお願いします。

川村メンバー

まだイメージができていないですが、パターン2は今までと同じような感じですよ。今までどおりでいい気がします。

阿部部会長

今までどおりの方が、イメージがつきやすいですね。

佐藤オブザーバー

今までどおりだと、パターン3でしょうか。

川村メンバー

席替えなしがパターン3ですか。

佐藤オブザーバー

はい。席替えなしが3です。

橋浦メンバー

今回、事務局から提案いただいたワールドカフェの狙いというのは、障がい福祉関連の方が新たに加わるので、人材交流を広くしたいからワールドカフェ方式を採用して、席替えを2回したいというのが意図としてあるのですよね。

花輪幹事

そうです。

橋浦メンバー

今、皆さんの話を聞いている限りだと、やはりはじめましての中での話し合いなので、話し合いを成熟させていく過程で、300人規模の席替えになると、なかなか限度があるのかなと思います。まずはパターン3でやってみるというのが、個人的な意見です。

阿部部会長

研修の狙いと講演内容と現実問題ですよね。300人の席替えという部分が。

川口副部会長

せっかくの機会なので、最初に自職種同士で集まるともったいない気もするので、パターン2か3かなと思っています。席を移って、色々な人と知り合える可能性もあるけれど、話し合いが浅く終わる可能性もあります。1テーブルの人数がもう少し少なければ問題ないですが、結構な人数なので、席を替わったときにまた挨拶から始まるから、難しいような気もするので、個人的には3なのかなと思いました。

阿部部会長

幹事からは、これに対してご意見等ありますか。

佐藤オブザーバー

皆さんのご意見を踏まえると、3番になるのかなと思っています。先ほど山上さんからもお話しのあった、席替えの座席が心配な点についてですが、実はセンターの方で1回目も2回目も席を決めようと思っていました。大規模研修で過去に一度やった経験から、できるのではないかという気持ちでいましたが、確かにその場の人たちの話が深まって、より私たちが求めるところまで、意見を出し合っていただけるかと考えると、もう1回席替えして、一から自己紹介して、1回目のグループの内容を共有するという時間は、もしかしたらもったいないかもしれないと、今感じたところです。

阿部部会長

他に、このグループワークについてのご意見はございますか。

川口副部会長

もしパターン2だとすれば、テーマは一つでよくて、そこで話し合ったことを紹介して、「そうなんだね」と終わるけれど、3の場合は1回目の話をしても、次のグループワークの時には、また問いを考え直す必要があるのではないのでしょうか。例えば、それをどうやって解決するかなど、そういったこともプラスしないと難しいと思います。その問いの立て方も考えなければいけないと思います。

山上メンバー

ワールドカフェにしたい意図や魂胆として、交流を目的としたいという考えもあったので

しょうか。ものすごくふざけた提案をすると、ワールドパブにしたらどうですか。

佐藤オブザーバー

パブですか。それこそ5年くらい前、過去にも提案がありましたね。

山上メンバー

0次会からスタートしてみるとか。

佐藤オブザーバー

昔、訪問リハビリテーション連絡協議会の寺田さんから同じご意見をいただいて、確かに面白いので、いつかはやりたいですね。

齋藤メンバー

介護施設の立場としては、やはり障がい福祉関係の方と接する機会は、こういう場に出てこない限り、仕組みも全くわからないし、知り合う機会もないです。だから、今回の案を見ても、何が正しいのかピンとこないのだと思います。以前のように医療・介護関係者だけであれば、おそらくピンとくるのでしょうか。新しい取り組みなので、まずは一番無難なパターン3にして、来年はワールドパブ風にするのがいいのかなと思いました。

阿部部会長

ありがとうございます。他にご意見はありますか。(なし)

いただいたご意見について、またセンターの方で協議していただくということでいいでしょうか。(異議なし)

それでは、協議事項1に関しては以上で終了し、次回の部会について、運営担当の幹事から説明願います。

花輪幹事

次回の部会は、改めて日程等を各メンバーの方々にお伺いして開催しようと考えておりますので、ご了承願います。

阿部部会長

最後に、全体を通して何かご意見・ご質問等はございませんか。(なし)

なければ、全ての議事が終了しましたので、進行を事務局にお返しします。

川村医療・介護連携担当

阿部部会長、ありがとうございます。

それでは、以上をもちまして、函館市医療・介護連携推進協議会の多職種連携研修作業部会 第23回会議を終了いたします。

皆様、お疲れ様でした。